

私の筆力不足で多くの方々が築いてこられた歴史を十分にまとめることができたとは言えないが、同志社大学図書館司書課程60周年を記念した『同志社大学図書館学年報』の記念号を完成させることができ、ほっとした気持ちでいっぱいである。

2011年初秋に渡辺・宇治郷両先生と集まった際に同志社大学図書館司書課程60周年記念誌（以下、60周年記念誌とする）をまとめるという話を持ちかけられた当初、こんなに大変な作業になるとは予想していなかった。60周年記念誌は『同志社大学図書館学年報』の記念号として刊行するということに決めたこともあり、それほど多くのページ数とすることはできない。青木次彦先生が図書館司書課程開設30周年までについてはまとめておられたので、その後について簡単に記述するとともに、既に退職された専任教員を含む人物伝をまとめる。さらに卒業生から寄稿いただく。これに加えて、資料編として司書資格と司書教諭資格の取得者数、毎年開講されていた科目の変遷と担当者の一覧、図書館実習の実習館をリストアップする。項目は多いけれど『同志社大学図書館学年報』も毎年刊行されているし、これをまとめれば簡単だろう。場合によっては年報の記事を再掲するというだけでもよいだろうから刊行までの道のりは近い。今から思うと甘い考えだったが、その当時は一定の時間が必要だとしてもスムーズに進むだろうと予想していたのである。そんな私が、コトの重大さに気づいたのは、今年度にはいり、もう夏が近くなってからであった。

図書館司書課程開設当初の状況は、青木先生が丹念に調べて記録してくださっていたこともあって比較的簡単に概要を知ることができたのであるが、その後『同志社大学図書館学年報』が刊行されるまでの状況については資料を探すところから苦労の旅は始まった。特に1960年代はじめから1977年まで（1975年に『同志社大学図書館学年報』が刊行されているが、現在と同じ書式で記録が掲載されるようになったのは1978年から）の約15年分については開講科目や担当者の一覧などもまとまった形では存在しておらず、図書館司書課程開設から1975年度までの司書資格取得者数のデータも図書館司書課程資料室にはないところからのスタートとなった。

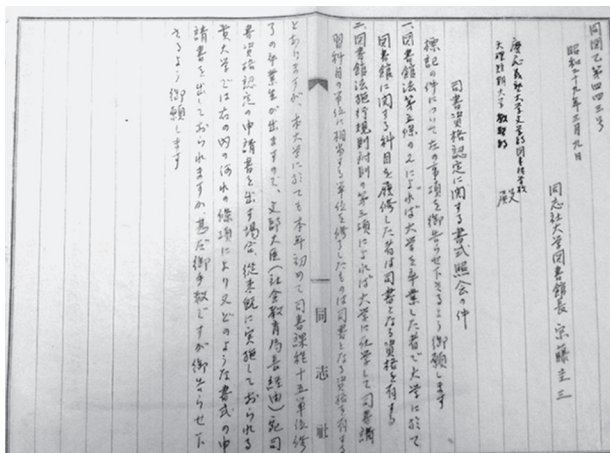
図書館司書課程資料室はもちろん、免許資格課程センター事務室、大学図書館、同志社社史資料センター、文学部事務室、社会学部事務室、日本図書館協会……、各所を訪ね歩き、時間をかけて調べる日々が続いた。ある年のデータについては科目一覧や担当者はもちろん、シラバスも含めてきちんと一カ所で保存されている場合もあれば、いくつかの資料を組み合わせないとわからない年も少なからず存在した。いや、その方が大半であったというべきか。今から40年以上も前には、学生に配布された開講科目一覧の担当者名も開講時間帯も空欄となっており、4月になってから時間割ではじめて明記して配布されたということもあったようで、せっかく見つけた資料に記載がないことや、いくつかの資料の記述が矛盾することも再三で、何度か泣きそうになった（笑）。

ある程度順調に進んだ後は、いくら探してもまとまった資料が見つからない。結局はある科目がその年に開講されていたのか休講であったのか、担当者が誰であったかを知るために、全ての司書資格・司書教諭資格取得者の司書資格申請書に記載された履修科目と履修年度や履修時期などを、ひとりひとり丹念にチェックして、どの年にどの科目がどの時期に開講されていたかを調べるしかないという状況とあいなった。この作業は個人情報のかたまりであり、成績も記載されているということで、アルバイトなどに依頼するわけにはいかない。私がひとりでコツコツ調べるしかないと感じた時には、後戻りできない状況になっていた。結局、全てのデータが揃った¹⁾のは2013年1月11日。ギリギリに設定された校了日まであと10日という、まさに瀬戸際、土俵際。足かけ3年に渡る作業となっていた。

何とか全てのデータを揃えることができた裏には幸運もあった。60周年記念誌をまとめようとした、この2012年に良心館が完成し、免許資格課程センター事務室が移転したことにもよるが、資料の詰まった倉庫が整理されたことは、その最大のものであろう。存在は言い伝えられていたものの、過去20年以上にわたって取り出されることがなかった資料を発見。その中に今回の調査に不可欠な1970年以前の個票が数多く保管されていたのである。保存のために使用されていた同志社大学の封筒の郵便番号は3桁、もしくは郵便番号の記載がない。郵便番号が導入されたのは1968年（7桁化されたのは1998年）であるから、おそらく1970年代にまとめられたものだったのだろうかと推測される資料群であった。

苦労も多かったが、執筆・編集してみて、同志社大学図書館司書課程の長い歴史と多くの卒業生の活躍を、あらためて実感することができた。『同志社大学図書館学年報』を読みはじめたところ、別の話題を見つけて読み耽るということもしばしばであり、大

変ではあったが楽しい時間を過ごすことができた。また、倉庫の奥から見つけた箱の中からは図書館司書課程開設当初の貴重な資料も数多く見つかった。中には図書館司書課程として最初の卒業生が誕生する直前に、日本図書館学校（現在の慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻）や天理短期大学図書館科（現在の天理大学図書館司書課程²⁾）に対して、どのように申請をすれ



日本図書館学校及び天理短期大学宛に
司書資格認定に関する書式を照会した書簡の控え

ば良いのかを問い合わせた手紙の写しや、それに対する返信なども含まれていた⁽³⁾。私にとって同志社大学と共にもう1つの母校である慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻の創立者である Robert L. Gitler 先生からの手紙もあり、大いに興奮させられた。そういった意味では、今回の60周年記念誌を最も楽しんだのは、私、原田であったかもしれない。

苦労話を中心とした編集後記を書いたが、もちろん今回の作業は私ひとりが苦労したのではない。図書館司書課程資料室の矢野麻里美氏、文学部・社会学部の各事務室、下村裕子氏、坂野友理氏をはじめとする免許資格課程センター事務室の方々、

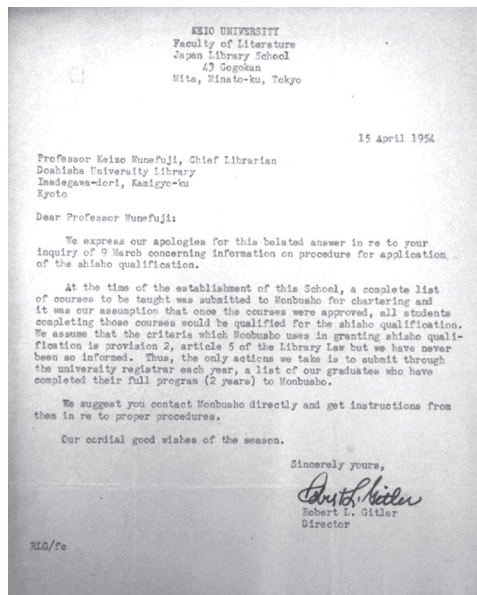
同志社社史資料センターの方々、同志社大学図書館レファレンス、渡辺信一先生、中島幸子先生、佐藤翔先生、寄稿していただいたり写真を提供いただいた多くの卒業生の皆様、無理なスケジュールにもかかわらず、完璧に作成いただいた杉原光太郎氏をはじめとする木村桂文社の方々。多くの方々の協力があったのはじめて完成を迎えることができたものである。さらに、私が調査にかかり切ることができたのは、本記念号の編集の主要な部分を全て担当して下さった宇治郷毅先生のおかげと心から感謝している。

同志社大学に戻ってきてから2年間、授業展開から図書館司書課程の運営まで全てを教えていただいていた宇治郷先生が本年度で退職されることは非常に残念であり、心細い限りではあるが、2013年4月1日に着任予定の新任教員と力をあわせて、伝統ある同志社大学図書館司書課程をさらに発展させていきたいと思う。

注

- (1) できるだけ正確を期したつもりであるが、調査不足も多々あるかと思う。是非ご指摘いただければ幸いである。
- (2) 天理短期大学は、その後一部の学科を4年制の天理大学に移した後、天理大学女子短期大学部に校名変更された。天理大学女子短期大学部は1959年3月31日をもって廃校とされた。天理短期大学図書館科で行われていた図書養成は、現在の天理大学図書館司書課程にうけつがれている。
- (3) 本稿および29ページの写真は原田隆史が資料保護のためライトをつけずに撮影したもののため鮮明でない。今後デジタル化した上で公開したいと考えている。それまでご容赦願いたい。

(原田隆史)



同志社大学からの照会に対する日本図書館学校の Robert L. Gitler 先生からの回答